

# 岐阜市児童科学館時代を振り返る

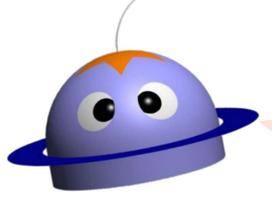
## 児童科学館 施設概要

視聴覚教育活動  
児童科学館

「岐阜市の教育」より

## 当時の教育費は？

「岐阜市の教育」より



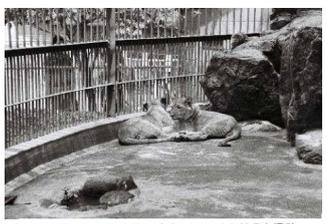
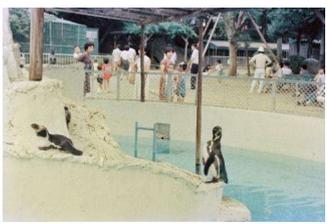
当時の入場料は、小中学生は15円。大人は、20円だったね。その頃の物価を調べると、アイスクリーマー（現ホームランバー）が1本10円、入浴料が15円、理髪料が154円となっているよ。

科学館という名称で調べると、昭和12年に開館した大阪市立電気科学館が一番と言われているね。昭和26年に博物館法が制定され、岐阜市児童科学館は昭和32年に登録博物館として認定されているよ。社会教育調査の資料によると、昭和28年には全国で32の科学博物館があり、昭和33年には37館となっているの。そのうち登録博物館は12館。岐阜市はこの12館のうちのひとつだから早いほうだね。

当時の新聞記事によると、児童科学館の建設費は、思い切って張り込んで600万円。その内訳として市費300万円となっているよ。300万円って聞くと相当安いように見えるけど、当時の市の財政規模は16億円前後。今の財政規模はおおよそ1,900億円だから、現在の規模だと100倍して3億円。決して安くはないね。



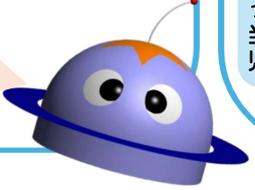
## 岐阜公園



岐阜城再建期成同盟会が結成され、市民の寄付等も加え、城戸博士の復元案を基に再建されました。

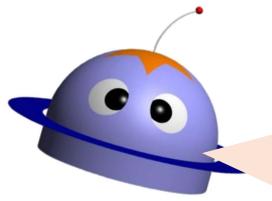


当時の岐阜公園には、名和昆虫研究所博物館（大正9年開館）、淡水魚水族館（昭和25年開館）があったよ。児童科学館が開館した昭和30年には、金華山ロープウェイが開業したね。その後、県立図書館（昭和32年）、子ども広場（昭和45年）などができ、多くの人で賑わっていたと想像できるね！



## 来館者は？

「岐阜市史」より



最初の数年は、年間3万人から5万人だったけど、昭和40年代後半からは8万人から9万人に増えてきたね。一日の最高人数は、2,200人という記録が残っているね。そんなに広くない建物だったので、裏の空き地にプレハブ建物を作って、工作教室等行っていたんだって。

昭和30年の岐阜市の人口は、259,047人だったよ。（当時は、芥見・日置江・柳津は別）当時から、岐阜市の人口の約5分の1の人が児童科学館を利用していたんだ！

